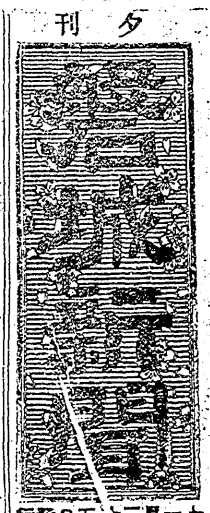
夕刊



十一月二十五日發行
日曜日休刊
東京振替一〇八五六五番
發行所　參城新聞社
編輯兼印刷人　岩崎清一郎
印刷所　東京市麻布区六本木三番地
定價　一部金五錢　一ケ月分金五拾錢　一ヶ年分金六拾九錢
廣告料　一行金拾錢　一ヶ月分金壹圓　一ヶ年分金拾二圓

童話

夜汽車

〔中〕

大塚恭子

『何かこちらの方に用事があつて來たの？』

『うん、いとこの兄さんが出征するので、お父さんと送りに行つて、今歸り途なの』

『ほう、それは御苦勞樣。お父さんは？』

『あつちに寢てるよ。――おぢさん、くたびれたやうだ、僕のところへ來てもいゝよ』

正雄達が乘つた時汽車は一杯で、お父さんと別れて坐らなければならなかつたのです。海軍さんをひつぱつて來て、自分の席へ無理に坐らせました。

『やあ、變の毒だね』

『うゝん、僕はいゝんだ』

すつかりいゝお友達になつた海軍さんと正雄を、眼をさましてゐたお客さん達は、ほゝえみながら見てゐました。

二人は相談しかねる〳〵一つの席に坐り合つてゐましたが、途中で窓際の向ひの席が一つ空いたので二人は向ひ合つて坐る事が出來ました。正雄は嬉しくていろ〳〵飛行機の事や軍艦の事を訊く事が出來ましたし、海軍さんもちつとも厭がらず喜んで色〳〵と教へてくれました。

お客さん達がぼつ〳〵おきだした頃、お父さんも目を覺ましたので、正雄が何時の間にやら他所の知らない海軍さんと大の仲良しになつてゐるのを見て驚きました。

『やあ、これは〳〵どうも』頭を掻く樣にしてにこ〳〵しながらお父さんはやつて來て、海軍さんに御挨拶しました。

『なか〳〵頼もしい荒鷲の第二世ですよ』

海軍さんもにこ〳〵して云ひました。

『いやあ、こいつは飛行機に夢中でしてね、重爆機がどれだけの偵察機がどれだけの出べたらいやつ、全く親父の敗北ですよ』

お父さんは嬉しさうに大言葉付き珍敵ゆえ御心移りきな身體をゆすつて笑ひました。

それから、お父さんと海軍さんは、正雄に一寸判らない樣な、歐洲戰爭の事を愉快さうに話しかけてゐました。

『あゝ次だ』大分町らしくなつた、海の傍らしい驛に停つたのを見て、海軍さんに、お父さんと正雄を見ながら云ひました。

『自分は次の驛で降ります』

『正雄は一寸淋しくなりました。自分の荷物を取りて何かお友達になつたしるしにおげる樣なものはないか』

お父さんは次の驛で降りました。

母

川口千香枝

○しらせはや汽車に乘りたりふるさとの母のよろこびかねておもほゆ

○母つれて矢上の宿に月を見む都に住まばまたいつのこと

○母上は子供のごとき我儘を云ひたまひけり老いのしたしさ

○上海に子をばゆかしめ老いらくのわが母上は孫とゐたまふ

喜松原少尉歸還賦贈

珠雲・小野務平

或冒炎熱或雪天
中華到處武名傳
彈丸不奪英雄膽
今日欽君奏凱旋

△國學者上田秋成歿す（文化七）△第26日 11月 ――三軍旅順總攻擊開始（明治三七）△ソ波戰國講和の共同發明發表（昭和一三）

△秀吉播磨上月城を攻む（天正六）△27日 11月 ――種子島に鐵砲渡來記念碑建つ（昭和二）

講談

振袖横町

（87）

須藤鐵一・荻原萬象畫

當時の事件（三）

『有難き御上意に候。御心にも相叶ひ候はゞ、御慰みの爲御恐れ乍ら差上奉る可く……。』

と申上げる。

備後守も傍より執成すやう、

『御能よりも又和やかにて配酬愈みにて御座候』

と申上げた時は、はや御酒宴も酣に日は傾きたる頃となつたので歸還を進め奉る、非常に名殘惜きと思召され、御手ずから傍へ召され上覽あるに、何れあでやかにて、御殿女中とは事ちがひ風俗・立例り、珍味佳肴には物珍しくなひ出した。

其風情豐ふるに物なく、

やや、飽きが來て樣子で將軍家には未だ斯ることをあるる。

その時、美濃守を御側に召され御土產を取らす可しく牧野本庄を始め、相伴の方の仰せに、備後守、御墨蹟へもの浮るばかり、斯付を取次ければ、美濃守重て御酒も興を增し、御盃の有難い旨御禮申上げれば數も自然と重なりし頃、美此時備後守、何やら珍敵御濃守拔群の馳走なりと上意を言上する。

やがて、觀世宗家の人々によつて新たに出來た能樂

『高砂舞平』

の謠曲に取り掛る。

『備後！これが美濃の趣向なのか……？』

網吉は、何の趣向だと言はぬばかりの不平顏で備後に言ふ。

『ハツ！他に何か珍趣向のある事と存じまする……。』

なれと、成御りに就きまし上げ奉れば、御台所にも殊の外に御喜び遊ばされて、御褒美を下されて。

翌日七人の藝子を奥御殿へ引取給ひ改めて御台所よりお進めになつた。

網吉も、美濃守が働きにて斯せしと悔び、表に奥御殿にて舞謠ひ御酒宴の興を盡へらした。

柳澤は自分より女中を差し上しと風聞があつたのでは後日の風聞を思つて斯う取計らつたのでもある。

網吉は、美濃守が何が珍らしい趣向をして、喜ばせられたらうと思つて來り見たが、大して趣向も凝らしてない樣子、

然る可く存じ奉り候と申て御褒りの儀式の爲に謠曲を上聞に遂げかと存じまする。若のお成りを斯樣な無聊の事のみ……御座なくと存じまする。今暫らく御辛抱の程を。』

と言上すれば

『左樣か……。』

とゝみ答へて不平氣に見ねた。

やがて、御能も終り再び奥殿にて酒宴となる。

その時、一間の襖がサツと押し開かれた。

それには五人の藝子美麗に粧ひて、琴、三味線、胡弓を調べ、美音にて小歌を唄ひ出せば、みめよき舞子二人綾羅の袂を翻へし、舞

天氣豫報

今晩　北から南西の風曇後晴
明日　北西の風晴

廣告

おでん　たつた揚　やきとり
一平
電話二六三番

「貯蓄は無盡で」
三行園
一歩一歩ず空の山
社交が淋しくならぬうち
無盡かけましう今のうち
參城無盡

アルバムでしたら
全國印
全國印アルバムの驚異
新鮮な圖案
全國印アルバムの堅牢な裝幀
全國印アルバムの厳選
やられた紙質等を
實物に就いて御覽下さい
只今數十種入荷いたして居ります氣のきいた御贈答用品として好適です
全國アルバム
全國コーナー
特約店　魁文堂
電話三一三番

安齋醫院
外科
（平市田町）
電話四七五番

産婦人科
專門
根本醫院
平市南町
（入院隨時）
電話三四番

高
中等學校
制服……大特賣
高島屋の制服
男女學生服
新入荷
並二注文
品製既
高島屋
平市二丁目
電話三八六番

募集
永續者には將來の保證を致します
ボーイさん
◇堅實な營業方針の　サロンのお客樣は當地一流の方々です
◇色々な方に接することが　社交儀禮實際に學び　成功の糸口ともなります
調理見習婦人
◇評定ある　サロンの調理法を御傳授いたします
◇見習ひとして調理場御勤務出來る御婦人に限る
◇14歳以上30歳迄の健康な方
◇3年以上勤續出來る方
◇親權者若くは本人御來談下さい
平市銀座街
サロン
電話529

毎度有難う御座います。
パン食普及の秋！
自慢の食パン　一斤十六錢
榮養パン　十五錢　バターロール二錢五厘
甘コッペ　十錢　チョコレートロール五錢
クリームロール五錢　野菜サラダパン、カレーパン、カツパン
ベーカリー
東京堂
平市極楽小路（電話一〇八番）

りん病　こしけ
專門藥
岩里別府淋藥
一週間分參圓（黑）五圓（赤）
痛みある病。熱ある病
岩里別府散
七包入　五十錢
十五包入　壹圓
製藥本舗　別府市　岩里天然堂
平市古銀治町一〇
代理店
阿康藥局
電話四十四番
振替東京三〇〇六五番

能食！
能便！
能眠！
能働！

便秘の害ほど恐しいものはありません。頭痛、メマヒ、耳鳴り、息切れ動悸、不眠、吹出物も、記憶力や活動力の減退も、十中八九は便秘の害であります。子供はヒキツケさへ起します。御婦人は色艶を失ひ、ヒステリーの主因となります。大人は、ぐんぐん老衰を招め――ついては、高血壓や腦溢血の原因にさへなります。これは皆、便の中毒なのであります。

しかし下劑の服用は、習慣性となり、胃腸を害します。それよりも、消化を助け、排泄を促がす各種の強力酵素とビタミンBの働きによつて快心の便通を齎らすミクローゼの御試用を、確乎たる自信を以てお薦め致します。

ミクローゼは星製藥が研究十八年、酵母劑にまさるの確信を得て發賣した日本固有の綜合ビタミン有効菌劑であります。

酵母劑の上を行く！
晶結の研究の十八年間
前京都帝大醫學部助教授・醫學博士　豐島豐次郎先生

ミクローゼ
一ケ月分三六〇錢　一圓五〇錢
東京　日本橋　星製藥株式會社

磐中へも求人殺到

大陸方面等から應じ切れぬ申込み

進路に迷ふ明春卒業生

近來の人的資源枯渇は實業學校卒業生中、學究的素質を有するものを除き上級學校入りのストップ等が發せられんとして居る今日、本商業生が過般早くも全部皆的濟みとなゞにのば時節柄寧ろ當然のことだが、尚は人手の充實に惱んでゐる大陸方面の官廳會社等では更に中學校へも求人の觸手を伸べ有能の人材を得ることに焦って居る

磐中五年級の第二種生（卒業後直に就職を希望するものは）現在三十四名であるが、大陸方面その他からの求人數が既に之の數を突破し、學校側に於てその斡旋に惱んでゐる一方、生徒自身としても其の選擇に迷ふ有様で學校では詳細條件その他を調査の上各當人の志望と照し合せ最善の推薦方法に出づるものと觀られてゐる

就學兒童　市内小學校へ明春入學する兒童數（市役所調査）は左の如く合計七百二名で今年度より六十八名減

△第一校二八〇名△第二校二三〇名△第三校男一二四名、女九九名△第四校男三七名、女三二名△分教場男一一名、女廿五名

四日決定したが郡内關係左の如し

△上小川、下小川組合國井勝丸二三〇〇

△赤井　鈴木種和三六〇〇

△荻野武一六〇〇

△磐崎　小泉三夫二二〇〇

△齊藤儀一二〇〇〇、幾上佐久馬三二〇〇

△渡邊　永山大一郎三八〇〇

△上釜田　高橋義一二〇〇〇、高木信定一二〇〇〇、高木信定一二〇〇〇、高木信定